

被災者支援体制の強化特別委員会 会議録（要点筆記）

日時：令和7年9月29日（月）

午後3時00分

場所：議会会議室

○委員長（坂井美穂）

ただいまから被災者支援体制の強化特別委員会を開催します。協議題1「調査事項について」を議題といたします。本日は視察先の調査項目について、改めて災害フェーズや対象者ごとに整理をしましたのでご説明し、皆様の理解を深めていただけたらと思います。併せて、現時点での視察調整状況と今後の日程調整についてもお相談させていただきます。

今回、強化が必要な支援策を7点挙げ、先進事例として神戸市、尼崎市、別府市を一覧にまとめました。ベースは以前の勉強会で防災安全課から提示された「フェーズと市の業務」の表ですが、本委員会用に編集しております。表の左側がフェーズで、発災直後の「超急性期」から「慢性期」まで時系列順になっています。ピンク色の部分は「災害時要援護者への支援」で、個別避難計画の実効性強化や要配慮者支援体制の強化を指します。緑色のマーカー部分が今回の調査内容となり、人的・物的被害の初期把握や民間団体との連携などが含まれます。

また、岡崎市については、後のフェーズである「災害ケースマネジメント」の導入推進について勉強します。また、民間企業の Bot Express からは、DXを活用した避難所外避難者への情報提供やニーズ把握の手法を学んでいきたいと考えています。全体を俯瞰して見ていただけるよう作成しましたが、何かご不明な点やご意見はありますか。

【「異議なし」との声あり。】

ありがとうございます。

次に、これから「災害ケースマネジメント」を考えていくにあたり、そのベースとなる住民情報をまとめる新しいシステムが今年度、半田市でも導入されました。本日は防災監よりその概要について説明をしていただきます。

○防災監（出口久浩）

それでは説明させていただきます。今年度導入する「被災者支援システム」は、罹災証明の発行がメインとなります。本年6月にプロポーザルを行い、富士フィルムさんと契約を締結しました。このシステムは三つのユニットから構成されます。一つ目は「被害調査統合システム」で、被害状況の可視化や調査員の班編成をアシストします。二つ目は「家屋被害判定アプリ」で、現地調査にタブレットを持参し、デジタル

化された調査票や損傷事例を見ながら損害割合を自動計算できるものです。これらにより、迅速な罹災証明の発行を実現します。

三つ目が、委員長が一番気にされている「生活再建支援ナビ（被災者台帳）」です。通常の災害では罹災証明をもとに支援が行われますが、証明が出ない方でも自治体がしっかりと把握し、管理していくべきではないかという視点で活用するものです。すでに東日本の被災自治体と共同開発されたものをベースにしており、今後は各部局を交えて半田市バージョンとして組み替えていきたいと考えております。内閣府が標準としている約 80 項目のデータベースを基本に構築していく予定です。説明は以上です。

○委員長（坂井美穂）

ありがとうございました。大規模災害時には家屋の壊れ具合による判定がその後の支援金や弔慰金、仮設住宅の利用資格に直結します。税務課職員を中心に現地調査を迅速化し、このシステムで速やかに罹災証明を発行する仕組みを整えることは極めて重要です。また、その後続く「被災者台帳」には、一人ひとりがどのような被害を受けたかという情報が集約されます。このデータを活用して本当に支援が必要な人を抽出し、一人ひとりに合った支援を継続する「災害ケースマネジメント」こそが、私たちが目指す方向です。半田市にもその大もととなる仕組みが入り始めているということを、まず理解しておく必要があります。

○有留麻由委員

非常に新しい概念で疑問も多いのですが、このシステムに住民情報が集約されることで、今後のマネジメントに活用できる土台が抽出できるという理解でよろしいでしょうか。

○委員長（坂井美穂）

その通りです。どこまでデータを統合できるかなど未知の部分もありますが、そこを先進事例から学んでいきたいと考えています。次に、視察の調整状況について報告します。別府市については残念ながらオンライン視察が不可となったため、代替案として 1 月 19 日の午前中に講義動画を視聴し、文書照会を行う形で調整します。岡崎市の視察は 1 月 26 日の午後で調整がつかしました。Bot Express のオンライン講義については、年内に日程を取り直します。10 月 30 日、11 月 25 日の候補日で確保させていただきます。また、以前確保していた 1 月下旬から 2 月上旬の予備日は候補から外してください。

○加藤美幸委員

一点提案ですが、1 月 8 日の神戸視察の際、午前の時間を利用して「人と防災未来

センター」を見学できないでしょうか。30 年前の震災の教訓を展示から学び、予備知識を深めた上で午後の市役所視察に臨むべきだと考えます。

○委員長（坂井美穂）

加藤委員、ありがとうございます。朝早くの出発となりますが、実際に経験していない私たちが現実を想像し、支援を考える上で非常に有意義な提案だと思います。皆様、よろしいでしょうか。

【「異議なし」との声あり。】

ありがとうございます。

私個人としても、実際に自分の目で見ることによってしか想像できない現実があると思っております。それでは、神戸視察にはセンターの見学を組み込む方向で調整します。以上で本日予定しておりました協議題は全て終了しました。これをもちまして特別委員会を終了いたします。

散会 午後3時45分